



おおぞら

第215号

2023年7月1日発行

発行責任者 山 本 貴 道

編集者 木 部 哲 也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

医療安全管理者養成研修で

学んだこと

おおぞら1号館課長 漆戸 直子

聖隷おおぞら療育センターに異動し2年目を迎えた2022年度、かつてから希望していた「医療安全管理者養成研修」に参加することができました。今回は、この研修で学んだことをテーマにお話ししていきます。

私は、利用者さんに安全・安心な看護を提供できるように、霧困気の良い職場作りを日々目指しています。今回の研修では多くのことを学びましたが、その中から安全文化について具体的方法を得たため、お伝えします。

安全文化には、『1. 報告する文化：安全文化の土台 2. 正義の文化：報告する文化と密接に関係 3. 柔軟な文化：変化する状況の適時適切に対応する文化 4. 学習する文化：学ぶ姿勢』があります。特に、1の報告する文化では、情報が入ってこないとその後に何も進まない。情報を集め多職種と共有する

ためには、まず報告のしやすい職場環境を作ることが大切であること、職員が報告しやすいように常に壁を低くすることが大切であり、それが医療安全管理者の仕事のひとつであることを学びました。具体的には、職員が医療安全関連で報告をしてくれた時に、「良かった。報告してくれてありがとう」と声をかけることです。すると職員は、言いくかっただけで報告して良かった、また報告しようと思えるという良い循環が生まれます。管理者側としては、報告されたことで、マニュアルを変えようと行動し実際にマニュアルが変わるというメリットに繋がります。それが、利用者さんを守ること・職員を守ることに繋がります。霧困気の良い職場作りに向けて、すぐに実践していきたいと思っています。

また、講義の中では、「何のためにマニュアルがあるのかを理解していない職員が多く、マニュアル通りに

実施することが目的になっていることがある。利用者さんの安全・自分の安全を守るということが目的であること、マニュアルが作られた理由をしっかりと伝えて行くことが必要である」ことを学びました。現場で働く職員は、マニュアルの作られた理由を知っている人が少ないのが現状です。そのため、医療安全管理者が中心となり、現場で職員に何のためにこのマニュアルが作成されたのかを伝えていくことが大切です。聖隷おおぞら療育センターで働く職員の一人一人が、マニュアルの作成された意味をしっかりと理解でき、実践できるよう、また後世に伝え続けていくことが大切であることを学びました。

研修で学んだことを日々実践し、利用者さんに安全・安心な看護を提供できるように霧困気の良い職場作りを今後も続けていきたいと思っています。



安全管理に留意しながら日々業務を行っています

はるか利用者の 日常生活

杉田 光宏



はるかでは、2つのリビングに分かれて利用者が生活しています。1つのリビングでは成人の利用者が、日中はテレビを見たり音楽を聞いたり、個別活動をして過ごしています。朝、職員がリビングへ入っていくと横になっていたAさんが体を起こして、職員の顔をじっと見て声をあげました。そしてBさんは職員に近づいて行き、「おはよう」と声をかけました。朝の和やかな雰囲気を感じら

れます。また日中、リビングで起こったハプニングで物音がするとそれを見て1人が笑い始め、それにつられるように周囲でも笑顔や笑いが溢れていきます。そのような時は楽しい雰囲気のリビング中に拡がっていくのが伝わってきます。利用者同士のやりとりでは、Bさんがリモコンを持ってテレビをつけると、その隣にCさんが近づいて一緒にテレビを見ています。また、職員が画用紙やマジックを使って描き始めると職員の周りにいつの間にか集まり職員がやっていることを一緒に見たり、色を選んで職員がやっていることを真似ようとしていたりします。一緒に生活する他者を意識しながら穏やかな時間が流れている場面が多くあります。

もうひとつのリビングは学童期の子もたちが生活しています。成長著しく、昨日できなかったことができるようになったりと嬉しい反面、危険を予測するのが難しいリビングです。リビングでDVDを見ていたDさんは番組の終わり頃になるとテレビの方を指さしてもう一度見たいことを職員に要求しているようでした。しかし、近くにいたEさんは他のテレビ番組が見たくてリモコンを持って操作しようとしていました。まるでテレビのチャンネル争いをしているように見えました。その時は職員が間に入って、Dさんに他のおもちゃをすすめ、Eさんがテレビを見ることになったのです。Dさんはなかなかおもちゃに気が向くことはなくテレビを気にしていました。他児と一緒に生活する中では自分の思い通りにならない場面もありますが、そのような経験も成長に繋がっていくのではないかと思います。また子どもたちは好奇心も旺盛で新しい楽器（おもたまとーん）で活動を行うとすぐに皆集まってきました。手に取って触って見たり、音を聴いたりすると笑顔が見られました。



では午後にみのり活動と称する集団で行う知育活動を行っています。はるかゾーンになってから約1年間行っています。今では、時間になり職員が準備し始めると目線をよく動かして見ており何か始まることを予測しているような楽しそうな表情が多く見られるようになりました。また、歌に合わせて名前を呼ぶプログラムでは皆に注目されることではっとした表情になったり、隣の人がやり始めるとそれをちらりと見たりします。みのり活動を通して他児を意識しているようです。この活動を継続している中でも

療育研究会を終えて

都築 宏輔

生活支援課では毎月、療育研究会が開催され

日々の利用者との関わりのエピソードからその人の興味関心についての理解を深めています。今回は、利用者の視覚や聴覚、対人関係における興味関心について、日々のエピソードをまとめ療育研究会で発表しました。

資料をまとめる際、日々自分が見ていた利用者のエピソードを実際のスケジュールに合わせると、自分の理解のズレに気付くことがありました。それらをまとめていく中で利用者の理解が深まってきました。また、自分の考えをうまくまとめられるか不安でしたが、1度自分の考えを書き出し、先輩職員と意見交換する



中で資料をまとめていくことができました。

療育研究会では自分の発表後に多職種で意見交換をしました。その時にも自分が知らなかった利用者のエピソードを聞くことができました。また、現在と過去のエピソードを聞く中で興味関心については共通する部分があることに気付きました。興味関心の軸となる部分はこの利用者にとっては大きく変わることはなかったことを確認しました。このように発表で理解をまとめるだけではなく、職員と意見交換をすることで更に利用者の理解が深まっていきました。



今回この療育研究会で話されたことを、実際の利用者の生活環境の工夫で実践しました。Aさんが日中過ごしている場所は、周囲で行われている他者の活動や関わりをAさんも見聞きすることができ、他者との距離感もAさんにとって落ち着ける音の環境でした。しかし、Aさんが視覚で捉えやすい左側には壁がある為、扉から入って近づいてくる職員が存在に気づきにくい状態でした。そのため、Aさんのマットの向きを扉側が見える位置に変えることで、近づいてくる職員に気付くことができる環境としました。そうする

ことでAさんは扉側から近づいてくる職員に気づき、表情柔らかくしていました。療育研究会を通して自分自身の利用者理解が深まっただけではなく、他職員と理解を共有することができました。それが実践に繋がり、Aさんにとってより良い環境を提供できたことは、良い経験となりました。

新入・異動

職員紹介

2号館 山越奈美恵

4月からおおぞら2号館に異動になりました。

聖隷に入職して十数年、病院でしか働いたことがなく、これまでの業務内容とは大きく変わりとまどう日々です。私は訪問看護に興味があるので、おおぞらでの看護ケアを学び活かしていきたいと思っています。

2号館 山田玲香

おおぞら療育センター2号館に育休明けに異動になった山田玲香です。今までの業務とは全く違うので

少し戸惑いもあります。病院とは違う生活の場として利用者が安心・安全に生活を送ることができるよう、支援していきたいと思っています。

あすか 小野風紗

おおぞら療育センターに入職しました、小野風紗です。利用者がその人らしい生活を送れるような支援を目指したいです。そのために、利用者の強みに着目した関わりや、柔軟な対応ができるように自分の引き出しを増やしていきたいです。よろしく願います。

うらら 杉本若菜

今年度から、おおぞら療育センターに入職させていただきます。杉本若菜です。利用者それぞれに合った支援を提供できるよう、積極的に行動できる職員になりたいと思います。初めての経験ばかりで、ご迷惑をおかけすることも多いことと思いますが、よろしく願います。

あおば 古橋美春

4月から聖隷おおぞら療

育センターに入職しました、古橋美春です。安心・安全な生活を送っていただけるように、限られた時間の中で利用者と関わる時間を大切にしていきたいです。まだまだ分からない事や不安な事があり、ご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願いします。



生活支援課 新入職員です！



リレーエッセイ

息子について

3号館 田口実紗

私には現在2歳の息子がいます。コロナ禍で初めての出産を経験し、世の中がどうなっているのだろうと不安に思いつつも充実した育児休暇を過ごさせてもらいました。息子はお話するのが大好きで、男の子では珍しいと周りに言われるほど本当によく喋ります。どこで覚えてきたのかママを煽てることも上手になってきました。私が息子を叱っているときも「ママごめんね。大好きだよ。髪かわいいね」と一生懸命伝えてくれます。どうやら保育園の先生にも注意されているときに同じようなことを伝えているようで母としては複雑です。人見知りなく、色々な人に話しかけにいける息子の長所がこれからも続いていくといいなと思います。小さい彼氏中心になってしまうので、たまには旦那さんのことも気に掛けてあげないといけないなと原稿を書きながら反省しています。



おおぞら食事紹介

5月の食育材料は「じゃがいも」です。

今回は「ポテトサラダ」で提供させて頂きました。

じゃが芋には、みかんと同程度のビタミンCが含まれ、でんぷんによって保護されているため、煮ても焼いてもあまり減らないという特性を持っています。



春じゃが芋が収穫される美味しい時期、春じゃが芋をお楽しみ下さい。

栄養課 管理栄養士：原・渡瀬



フェスタおおぞら についてのお知らせ

今年度も9月の一般公開としての開催はありませんが、入所部門でのイベントを企画中です。

内容については決定次第お知らせいたします。



苦情解決委員会

2023年1月～3月

期間中公表を希望される苦情はありませんでした。

(期間中受付した苦情は2件でした)



	3月	4月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	37人 (201日)	41人 (221日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	17人 (82日)	18人 (83日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)